

がん感染症疾病対策課感染症対策係
 担当 西田、阿部
 直通：092-643-3597
 内線：3386

福岡県感染症発生動向調査感染症週報

令和4年第33週（令和4年8月15日～令和4年8月21日）

福岡県感染症情報センター

■ コメント

- ・今週は、日本紅斑熱及びライム病の報告が1件ずつありました。どちらの病気も病原体を保有するマダニに咬まれることで感染します。日本紅斑熱の潜伏期間は2～8日で、頭痛、発熱、倦怠感、発疹の症状が現れます。ライム病の潜伏期間は3日～30日で、感染初期に、マダニに咬まれた部位に赤色の丘疹が出た後、環状に紅斑が広がる特徴的な症状が現れます（遊走性紅斑）。また、その際に、筋肉痛、関節痛、頭痛、発熱、悪寒、倦怠感などの症状を伴うことがあります。体の表面で吸血しているマダニを見つけた場合は、自分で取ろうとせず、できるだけ医療機関（皮膚科）を受診しましょう。また、山登りなど草の茂った場所に入る場合は、マダニに咬まれないよう、長袖、長ズボンを着用し、肌の露出を少なくすることが大切です。詳しくは別紙の注意事項をご確認ください。
- ・福岡県感染症情報ホームページ(http://www.fihef.pref.fukuoka.jp/~idsc_fukuoka/)では、感染症発生情報、病原体検出情報などがご覧になれます。

■ 全数把握疾患報告

病名	福岡県		全国（前週）	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	9	465	172	8,916
腸管出血性大腸菌感染症	8	116	111	1,733
日本紅斑熱	1	2	5	185
ライム病	1	1	1	9
レジオネラ症	2	38	44	1,195
侵襲性肺炎球菌感染症	2	40	8	742
梅毒	5	311	105	7,241

※新型コロナウイルス感染症の最新の発生状況等は別紙をご覧ください。

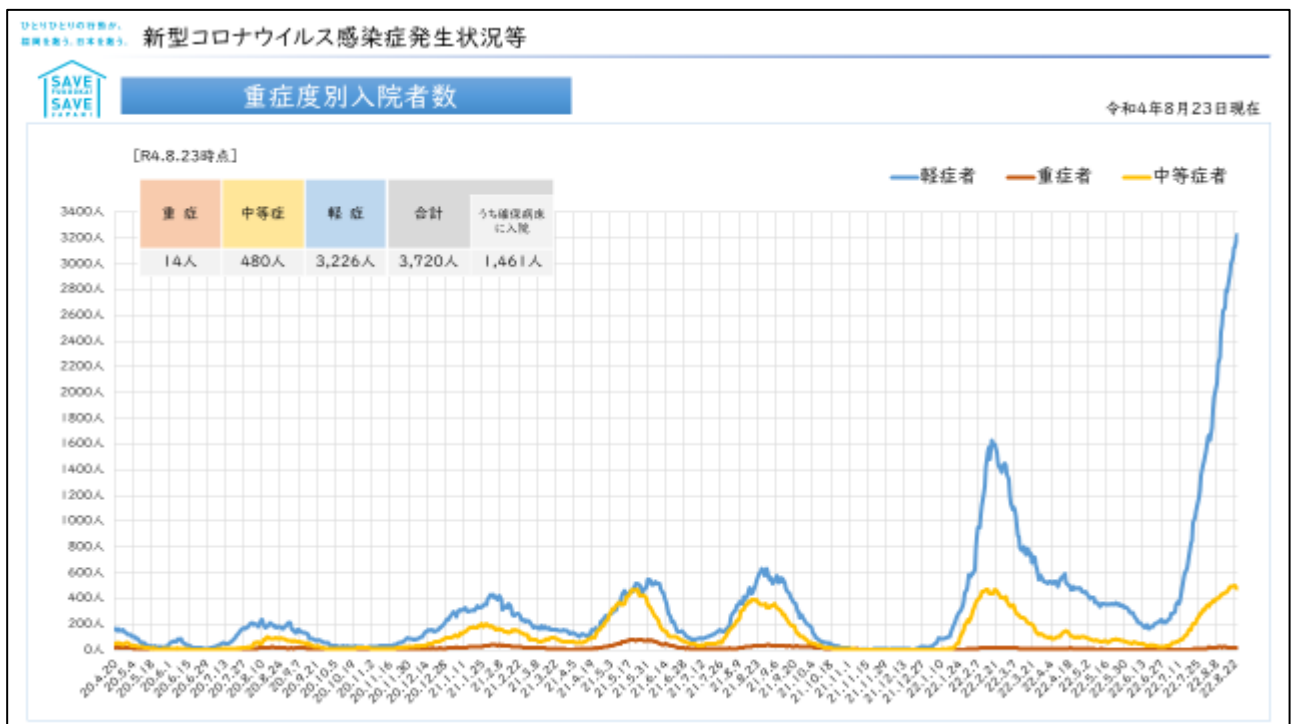
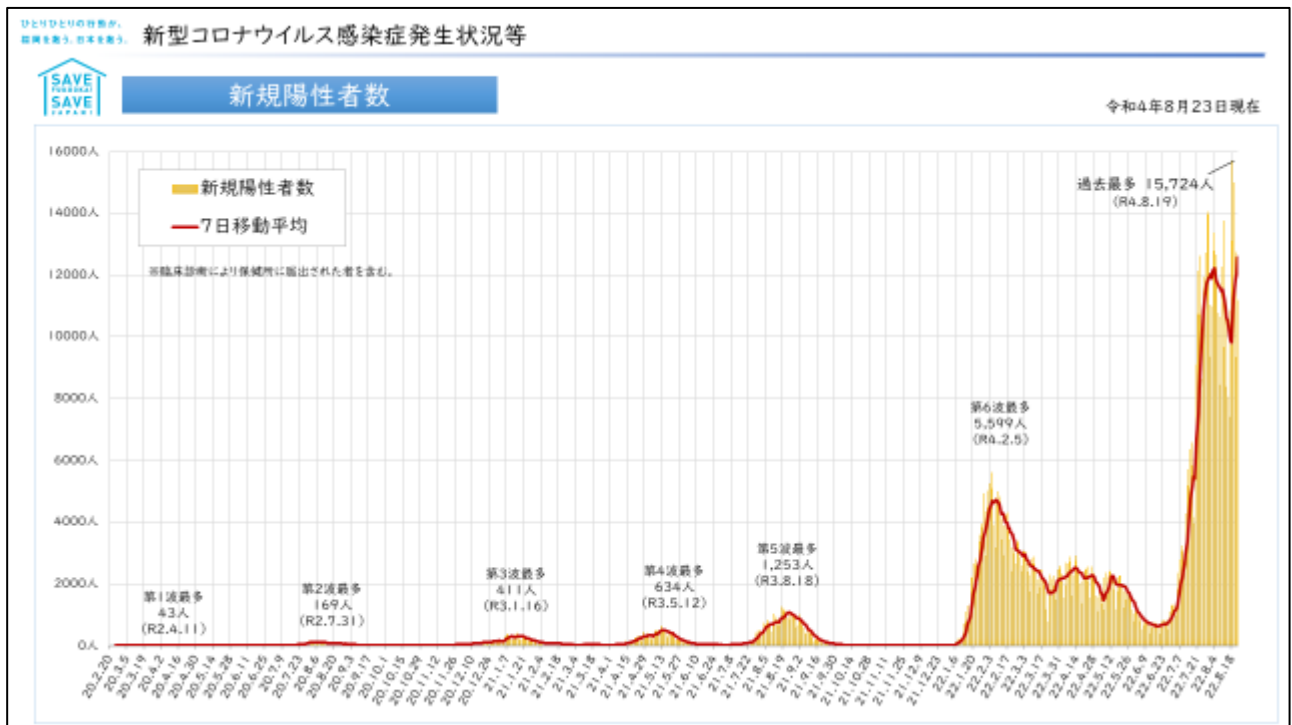
■ 定点把握疾患報告数

警報レベル

注意報レベル

病名	福岡県			全国（前週）	
	報告数	定点当たり	前週比	報告数	定点当たり
インフルエンザ	25	0.13	0.96	111	0.02
RSウイルス感染症	166	1.38	0.82	4,757	1.59
咽頭結膜熱	17	0.14	1.31	246	0.08
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	0.27	0.58	591	0.20
感染性胃腸炎	338	2.82	1.05	4,838	1.61
水痘	11	0.09	1.38	157	0.05
手足口病	91	0.76	1.47	7,911	2.64
伝染性紅斑	0	0.00	-	18	0.01
突発性発しん	31	0.26	0.76	625	0.21
ヘルパンギーナ	22	0.18	0.92	1,773	0.59
流行性耳下腺炎	6	0.05	3.00	53	0.02
急性出血性結膜炎	0	0.00	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.12	3.00	84	0.13
細菌性髄膜炎	0	0.00	-	8	0.02
無菌性髄膜炎	1	0.07	-	7	0.01
マイコプラズマ肺炎	0	0.00	-	9	0.02
クラミジア肺炎	0	0.00	-	-	-
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0	0.00	-	1	0.00

○県内における新型コロナウイルス感染症の発生状況等について



・福岡県では、下記のホームページにて随時、発生状況や感染予防策などの情報提供を行っています。

◇新型コロナウイルス感染症ポータルページ

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/covid-19-portal.html>

山や草むらで活動するときは、

マダニに注意しましょう

春から秋にかけての季節は、キャンプ、ハイキング、農作業など、

山や草むらで活動する機会が多くなりますが、マダニの活動も活発になります。

野山に生息するマダニに咬まれると、

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、ライム病

などの感染症にかかることがあります。

予防のポイント

下の4つのことを参考にして、ダニに咬まれないようにしましょう。

(これらの予防方法はツツガムシに咬まれて感染するつつが虫病の予防にも有効です。)

1. マダニの生息場所



マダニは、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。



マダニは、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。

3. マダニから身を守る方法



上着や作業着は、家の中に持ち込まないようにしましょう。



屋外活動後は、シャワーや入浴で、ダニが付いていないかチェックしましょう。



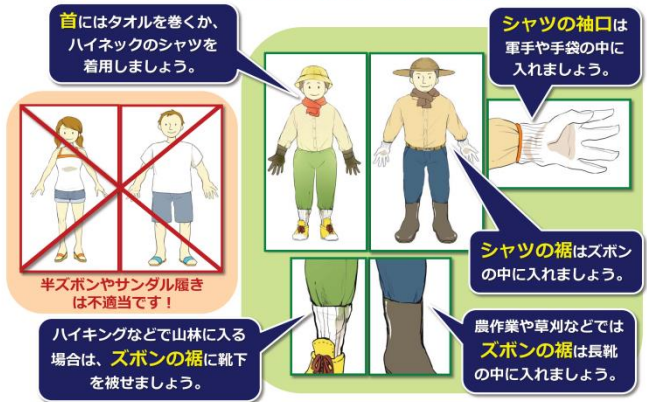
ガムテープを使って服に付いたダニを取り除く方法も効果的です。

ダニ類の多くは、長時間(10日間以上のこともある)吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置(マダニの除去や消毒など)を受けて下さい。

マダニに咬まれたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

2. マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう!



首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。

シャツの袖口は、軍手や手袋の中に入れてみましょう。



半スボンやサンダル履きは不適当です!

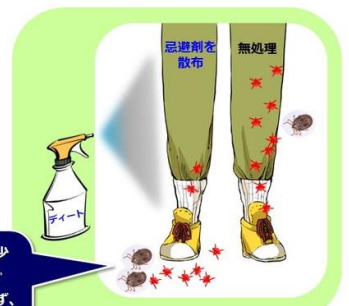
シャツの裾はスポンの中に入れてみましょう。

ハイキングなどで山林に入る場合は、スボンの裾に靴下を被せましょう。

農作業や草刈などではスボンの裾は長靴の中に入れてみましょう。

4. 忌避剤の効果

マダニに対する忌避剤(虫よけ剤)が、2013年から新たに認可されました。現在は、ディート、イカリジンの2種類の有効成分の忌避剤が市販されています。



忌避剤の使用でマダニの付着数は減少しますが、マダニの付着を完全に防ぐわけではありません。忌避剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせる対策を取ってください。

出典 国立感染症研究所昆虫医科学部

詳細な情報は県ホームページをご覧ください。